

福島県立医科大学々報

目 次

○ 学 事	-----
令和2年度入学式学長式辞	2
令和2年度入学者数	3
令和元年度医学博士授与者（後期）	4
○ 人 事	-----
新任教授等・新任准教授等・新任講師等	5
新任あいさつ	6
・理事（県民健康・新学部担当）兼副学長（県民健康担当）	安村 誠司
・理事（教育・研究担当）兼副学長（学務担当）	錫谷 達夫
・看護学部長	坂本 祐子
・放射線健康管理学講座 主任教授	坪倉 正治
○ 諸 規 程 改 正	-----
令和2年3月から令和2年8月までの主な諸規程の制定、改正及び改廃関係	8
○ 役員会・経営審議会・教育研究審議会・医学部教授会・看護学部教授会	-----
役員会	11
経営審議会	12
教育研究審議会	12
医学部教授会	12
看護学部教授会	13

学 事

■令和2年度 福島県立医科大学入学式

学長式辞

福島県立医科大学 学長 竹之下 誠一

本日、入学を許可された医学部130名、看護学部84名、大学院医学研究科48名、看護学研究科8名の皆さん、ご入学誠におめでとうございます。昨年末から始まった新型コロナウイルス感染症の流行により、このような形で皆さんをお迎えすることとなりました。例年がない不安と緊張の中で、入試を突破してきた皆さんの努力に深く敬意を表します。そして今日からは、仲間となる皆さんが互いに切磋琢磨し、将来、共にその志が成就されるよう、教職員一同、しっかりサポートしていきたいと思えます。

祝辞を述べるにあたり、新入生の皆さんに毎年必ずお伝えしていることがあります。それは、本学が担う使命と、福島で医療を学ぶことの意味についてです。2011年3月11日、福島は未曾有の災害と原発事故に見舞われました。県内唯一の医師養成教育機関であり、県内唯一の特定機能病院でもある本学は、震災後いち早く、自らの新たな使命として「健康と医療の面から福島の復興を支える」ことを宣言。教職員が一丸となり、総力を挙げてこの使命の完遂に当たって参りました。そして、今日(こんにち)に至るまで、本学は片時も休むことなく、県民の方々、被災者の方々の健康を見守り、支え続けています。しかし、その取組みは前例のないことだけに、見倣うことの出来る事例など全くありません。いわば、地図のない荒野、海図のない海原を進むのと同じで、試行錯誤の連続です。その過程では、時に強いお叱りを受け、厳しい批判を受けることもあります。その都度、私たちは悩み、自問自答し、県民の皆さんに対し、世界に対し、そして未来に対し、最適なソリューションモデルを示すべく考え、行動しようと努めています。

このように本学は、他の大学とは違い、不安を抱える県民を支え、この災害と惨禍に対して最前線に立ち続けることを宿命づけられた大学です。あの惨禍から10年が経とうとする今、皆さんにとっては「よく知らない過去のこと」という意識が強いかもしれません。しかし、この大学で医学や看護学を学ぶこととなった者が、震災、原発事故、その被災者の方々の悲しみ、苦しみ、悔しさに対し、無関心でいることは絶対に許されません。自分自身の中に、この惨禍との接点や課題を見出し、真摯に考え、行動することが求められます。福島に刻まれ

た悲しい歴史に対し、私は知らない、関係ない、という姿勢は許されないこと、福島の復興の在り方に常に問題意識を持ち続けることを肝に銘じ、本学での学びをスタートさせてください。

さて、皆さんが本学で学びを始める2020年、世界は不安定さを増しています。イギリスはついにEUを離脱しました。アメリカなど大国の一国主義が先鋭化し、難民のニュースが絶えず流れています。気候変動は地球上の多くの資源の枯渇を示唆し、今まさに世界で猛威を振るう新型コロナウイルス感染症は世界中の人々を大きく動揺させています。日本もまた例外ではありません。戦後、先人たちが築き上げてきた世界に誇る安定が、少子高齢化や人口の偏在、経済格差の拡大などによって揺らいでいます。これまで当たり前、常識と思っていたことが、その拠り所となる基盤から変わろうとしているのです。今、この話を聞いて「私には関係ない」と思う人がいれば、すぐに意識を変えてください。医療は誰のためにあるのか、何のためにあるのか、という本質を考えてください。あらゆる人々の幸福な生活を支えるために医療は存在します。つまり、医療の質が向上し、医療を届ける地域が広がることは、社会の安定に大きく貢献する行為なのです。その社会自身の安定が今、揺らいでいます。私たちがそのことに無関心でいるわけにはいかないのです。医療の進化が止まり、あまねく医療を届けることが困難になれば、私たちが存在する意義すら揺らぎかねないのです。

では、このような国内外の変化に対し、私たちはどのように向き合っていけばよいのでしょうか。医療人、つまり科学者となる皆さんにとって、変化への対応法は、一つしかありません。それは、変化の本質を解明し、新たな仕組みを構築し、進化に変えていくことです。そのためには、多様なチャレンジと深い思考が求められます。変化に対し一つのチャレンジだけで、その本質が見えることはありません。短絡的な思考によって導かれた結論が、画期的なイノベーションをもたらすこともありません。科学を学ぶ姿勢も同じです。さまざまな角度から切り口を変えて変化に迫り、熟考することで、次第に変化の中にある本質的な何かを削り出されて、科学の進化をもたらすのです。

そこで今年1月、本学は「変化を進化に」というメッセージを発しました。そこには、私たちひとり一人が、チャレンジを重ね、徹底的に考えることで、変化の波を何らかのプラスに変えていくよう、奮起を促す気持ちを込めました。医学や看護学という一つの専門領域だけでもその変化は日進月歩です。皆さんは、基礎を学ぶだけで、最初は体力も知力を使い果たすでしょう。しかし、社会の変化にリンクしていない学問は、いくら追求しても、結局は小さく閉ざされた自己満足でしかありません。自らの進化、科学の進化、社会の進化に貢献するために広く社会全体の変化も合わせて俯瞰する力を養ってください。

そして、このチャレンジと思考の繰り返しには、決して避けて通れない宿命があります。それは「失敗」です。失敗のないチャレンジや思考はありません。皆さんは、これからの長い学びの過程で、絶望的になるほどの失敗を繰り返します。しかし、失敗を漫然と繰り返し、失敗に慣れてしまつては、変化の本質を削り出し、進化に変える力にはなりません。大切なことは失敗に対し「反省」ができるかどうかです。反省をするためにもまた、広く自分や社会を俯瞰した視点と謙虚な姿勢が必要です。今日皆さんは、大学受験という大きな壁を乗り越え、誇らしく自信に溢れた気持ちでいるでしょう。しかし、この入学式の後には、その自信も誇りも忘れてください。謙虚な姿勢で、新しい世界と変化へのチャンレジヤーとして、限界まで考え抜き、それでもなお失敗を繰り返し、なぜなのかと反省し、新たなチャレンジの原動力とする。皆さんの最大のミッションは、広い視野の下、そのタフな精神力と反省力を身に付けることに尽きます。今、皆さんが心に持っている志を成就するために、決して答えを求めることを急いではなりません。同じ失敗を二度繰り返すことがなくなれば、おのずと志は成就されるのです。

皆さんの周囲を見回してください。このハードな道のりを踏破するための最大かつ最高のパートナーは同期の仲間です。互いに切磋琢磨し、高め合いながら一歩ずつ前に進んでください。

皆さんの健闘を祈ります。

■令和2年度福島県立医科大学入学者数

① 医学部新入生130名

	男	女	計
県内	25名	17名	42名
県外	61名	27名	88名
計	86名	44名	130名

② 看護学部新入生84名

	男	女	計
県内	8名	51名	59名
県外	2名	23名	25名
計	10名	74名	84名

③ 大学院新入生56名(4月入学)

	男	女	計
医学研究科(博士)	20名	14名	34名
医学研究科(修士)	3名	3名	6名
医学研究科(共同・修士)	6名	2名	8名
看護学研究科(修士)	0名	8名	8名
計	29名	27名	56名

■令和元年度医学博士授与者(後期)

氏名	学位論文名
阿部 諭史	Chapter I. Recovered left ventricular ejection fraction and its prognostic impacts in hospitalized heart failure patients with reduced ejection fraction (左室駆出率が低下した心不全入院患者における左室駆出率の改善と予後に関する検討)
脇岡 奈保子	Chapter II. Liver dysfunction assessed by model for end-stage liver disease excluding INR (MELD-XI) scoring system predicts adverse prognosis in heart failure (心不全患者における肝機能障害と予後の関係 MELD-XI スコアによる検討)
伊藤 徹哉	Clinical Impact of Insulin Resistance on Pulmonary Vein Isolation Outcome in Patients with Paroxysmal Atrial Fibrillation (インスリン抵抗性が与える発作性心房細動患者における肺静脈隔離術後の洞調律維持率への影響について)
	Prevalence of Lynch syndrome among patients with upper urinary tract carcinoma in a Japanese hospital-based population (本邦での腎盂尿管癌患者におけるリンチ症候群の有病率)

堀切 将	レーザー照射術に用いる外用麻酔薬の客観的評価	川名 聡	びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫における CD54 を介した腫瘍細胞間接着による増殖
前田 亮	Involvement of high-mobility group box 1 in the pathogenesis of severe hemolytic uremic syndrome in a murine model (重症 HUS モデルマウスの発症病態における HMGB1 の関与)	岡崎 可奈子	Factors associated with incidence of undernutrition in the elderly in evacuated areas after the Great East Japan Earthquake (東日本大震災後の避難区域高齢者における低栄養傾向発生に関連する要因)
一條 靖洋	Impaired frontal brain activity in patients with heart failure assessed by near-infrared spectroscopy. (近赤外線スペクトロスコピーを用いた心不全患者の前頭部活動低下に関する検討)	伊藤 文人	Vehicle configurations associated with anatomical-specific severe injuries resulting from traffic collisions (正面衝突事故における Cab-over 車の前面形状と外傷重症度との関係性)
高橋 智子	Associations between diabetes mellitus and pulmonary hypertension in chronic respiratory disease patients (慢性呼吸器疾患患者における糖尿病と肺高血圧との関連)	NORSHALENA BINTI SHAKESPEAR	Astrocyte-derived exosomal miR-200a-3p prevents MPP+-induced apoptotic cell death through down-regulation of MKK4 (アストロサイト由来エクソソーム miR-200a-3p は MKK4 発現の抑制を介して MPP+誘発性アポトーシス神経細胞死を抑制する)
石橋 真輝帆	Effect of pro-inflammatory diet before pregnancy on gestational age and birth weight: The Japan Environment and Children's Study (妊娠前の向炎症食が妊娠週数および出生体重に及ぼす影響: 子どもの健康と環境に関する全国調査)	関野 啓史	Usefulness of Forward-projection Model-based Iterative Reconstruction in Brain CT as Compared with Filtered Back Projection Reconstruction using adaptive iterative dose reduction 3D (脳 CT における逐次近似画像再構成法の有用性)
柏崎 潤	ヒト3次元培養表皮モデルを用いた手指消毒剤の角化細胞に対する傷害性の検討	猪狩 翔平	Effects of decanoic acid on skin inflammation in a mouse model of contact hypersensitivity (接触過敏症モデルマウスにおける、デカン酸軟膏の効果の検討)
村上 祐子	過剰なクロロゲン-4 シグナルは乳癌細胞株の悪性形質を促進する。	菅原 茂耕	Feasibility of gamma camera-based GFR measurement using renal depth evaluated by lateral scan of ^{99m} Tc-DTPA renography (^{99m} Tc-DTPA レノグラフィにおける側面像による腎の深さを使った GFR 測定の開発)
大内 佳奈江	Cl ⁻ channels regulate lipid droplet formation via Rab8a expression during adipocyte differentiation (Cl ⁻ チャンネルは脂肪細胞分化過程において Rab8a の発現を介して油滴の形成を制御する)		
森本 一生	Increase in blood pressure by local injection of ketamine into the amygdala in rats (扁桃体へのケタミンの局所注入による血圧上昇)		
藤本 聡	Fall Prediction Reference Values Determined Using the Physical Fitness Test for Psychiatric Inpatients in Japan (日本の精神科病院入院患者のための体力検査を用いた転倒リスクの評価法)		

関野 瑞希 Analysis of expression of programmed cell death-ligand 1 (PD-L1) and *BRAFV600E* mutation in thyroid cancer
(甲状腺癌における Programmed cell death-ligand 1 (PD-L1)発現と *BRAFV600E* 遺伝子変異の検討)

伊藤 崇 Experimental fasciitis induced by local bleomycin administration: a possible murine model of human eosinophilic fasciitis
(マウス筋膜へのプレオマイシン局所注射による筋膜炎の誘導:好酸球性筋膜炎マウスモデルの可能性)

山田 玲央 Evaluation of selective sensitivity of EZH2 inhibitors based on synthetic lethality in ARID1A-deficient gastric cancer.
(ARID1A欠損胃癌に対する合成致死に基づいた EZH2 阻害剤の選択的感受性の検討)

星 信大 乳癌におけるクラスリンアダプター、AP-1の発現様式と臨床病理学的因子の関連性について

根本 大樹 Inhibitory effect of lidocaine on colonic spasm during colonoscopy:A multicenter double-blind, randomized controlled trial
(大腸内視鏡検査におけるリドカインの腸管蠕動抑制効果:多施設、二重盲検、ランダム化比較試験)

松村 勇輝 Epidermal growth factor receptor gene mutation as risk factor for recurrence in patients with surgically resected lung adenocarcinoma: a matched-pair analysis
(肺腺癌術後再発因子としての上皮成長因子受容体遺伝子変異:ペアマッチ解析から)

赤井畑 美津子 Glucocorticoids attenuate the sensitivity of glucocorticoid-resistant lymphoid cells to doxorubicin via reduction in OCTN2
(グルココルチコイドは OCTN2 減少を介してグルココルチコイド抵抗性リンパ系細胞のドキソルビシン感受性を減弱させる)

南川 一夫 Regulation on introducing process of the highly difficult new medical technologies: A survey on the current status of practice guidelines in Japan and overseas
(高難度新規医療技術の導入プロセスに関する国内外調査研究)

人事

(令和2年9月1日現在)

○新任教授等

- 採用 2.4.1 東白川整形外科アカデミー
教授 箱崎 道之
- 採用 2.4.1 手外科・四肢機能再建学講座
教授 江尻 荘一
- 採用 2.4.1 外傷学講座 教授 澤口 毅
- 採用 2.4.1 外傷学講座 教授 峰原 宏昌
- 採用 2.4.1 肥満・体内炎症解析研究講座
教授 大戸 斉
- 採用 2.4.1 小児科学講座 特命教授 篠木 恒成
- 採用 2.4.1 ヒト神経生理学講座 教授 宇川 義一
- 採用 2.4.1 新医療系学部設置準備室
教授 神先 秀人
- 採用 2.4.1 助産師養成課程設置準備室
教授 三瓶 まり
- 採用 2.4.1 先端臨床研究センター 教授 志賀 哲
- 採用 2.4.1 広報コミュニケーション室
特命教授 持田 謙介
- 採用 2.4.1 母性看護・助産学部門
教授 篠原 好江
- 昇任 2.4.1 産科婦人科学講座 教授 添田 周
- 採用 2.6.1 放射線健康管理学講座
教授 坪倉 正治
- 昇任 2.6.1 (会)臨床医学部門
主任部長 歌野 健一

○新任准教授等

- 採用 2.4.1 新医療系学部設置準備室
准教授 澄川 幸志
- 採用 2.4.1 新医療系学部設置準備室
准教授 藤田 貴昭
- 採用 2.4.1 (会)精神医学講座
科部長 志賀 哲也
- 昇任 2.4.1 消化管外科学講座
准教授 佐瀬 善一郎
- 昇任 2.4.1 ふたば救急総合医療支援センター
准教授 市川 優寛

○新任講師等

- 採用 2.4.1 総合科学教育研究センター
講師 久保田 恵佑
- 採用 2.4.1 (会)耳鼻咽喉科学講座
科長 鈴木 俊彦
- 昇任 2.4.1 消化管外科学講座 講師 坂本 涉
- 昇任 2.4.1 形成外科学講座 講師 藤田 宗純
- 昇任 2.5.1 臨床研究教育推進部
講師 大前 憲史
- 採用 2.7.1 (会)整形外科・脊椎外科学講座
科長 富永 亮司

■新任あいさつ**理事（県民健康・新学部担当）兼副学長
（県民健康担当）就任ご挨拶**

理事（県民健康・新学部担当）
兼副学長（県民健康担当）

安村 誠司

2020(令和2)年4月1日付で、理事(県民健康・新学部担当)兼副学長(県民健康担当)を拝命致しました。なお、医学部公衆衛生学講座の主任教授です。

本学報は3月末と9月末の年2回の発行であり、私は本稿の執筆依頼を9月に頂きました。「就任の挨拶」と

のご依頼で、やや戸惑いでしたが、約半年経過しての動向も含めてお伝えさせていただきます。

「県民健康・新学部」のうち「県民健康」には、放射線医学県民健康管理センター、及び、健康増進センターの事業推進の2つがあります。いずれも、県からの委託事業で、本学として極めて大きな位置づけとなっています。前者は東日本大震災、そして、その後の東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う放射性物質の飛散により県民の健康状態への懸念が発生したため、県民の健康保持・増進を図ることが目的です。震災後10年を迎える現在、その活動を総括し、今後の調査・支援のあり方を検討しています。健康増進センターは、FDB(福島県版健康データベース)等による健康実態の分析やその活用の他、循環器疾患登録及びその分析を担っており、県の予防・健康増進のシンクタンク的な役割を期待されています。

一方、「新学部」は来年4月に保健科学部としての設置に向け、教職員一丸となって準備を進めています。福島駅東口から徒歩5分の学部棟の建設も順調に進み、9月13日の説明会では、多数の高校生、教員の参加がありました。

以上、いずれの内容も本学の、そして、本県にとって極めて重要な分野、内容です。皆様方の引き続きのご支援とご協力をお願い申し上げます。

**理事（教育・研究担当）兼副学長（学務担当）
就任ご挨拶**

理事（教育・研究担当）
兼副学長（学務担当）

錫谷 達夫

今年度より理事(教育・研究担当)兼副学長(学務担当)を拝命致しました。教育、研究と診療が本学の使命の3本柱ですが、その2つを担当させていただく責任の重さを日々痛感致しております。浅学、非力の身ではございますが、皆様のお力をお借りしながら精一杯務めさせていただく所存です。どうかご指導ご鞭撻、そして叱咤激励いただければ幸いです。何卒宜し

くお願い申し上げます。

就任直後より新型コロナウイルス感染症問題で四苦八苦しております。時間割の変更や遠隔講義の導入、さらには学生への経済的な支援など、これまで経験したことのない課題が次々と起こってきました。多くの先生方、事務方の皆様には献身的にご対応いただき、本当に助けられっぱなしの半年でした。また、学生への経済的支援につきまちは多くの企業や団体、同窓会の皆様、そして本学の教職員の皆様から心温まる多大なご寄付を頂きました。この場をお借りして心から御礼申し上げます。

来年度、いよいよ新医療系学部が開設予定であることを皮切りに(これは私の担当ではありませんが)、再来年度を目標に看護学部の大学院博士課程の設置、さらに令和5年度には助産師養成課程を設置すべく作業が進められています。東日本大震災より10年が経とうとしております。福島県そして本学がますます発展するよう、教育と研究の面から支えてまいりたい所存です。よろしくお願い申し上げます。



看護学部長就任ご挨拶

看護学部長
坂本 祐子

令和2年4月1日付けで看護学部長を拝命いたしました坂本祐子です。

奇しくも同日、看護基礎教育に携わる看護教員誰もが経験したことのない新学期を迎えました。実践の科学である“看護学”教育の4年間の課程において重要な位置を占める臨床実習が、covid-19の感染拡大に伴い“年度内に開講できる日が来るのか”、“どのように代替するか”、教員誰もが“不安”と“教育を担う使命感”に押しつぶされそうになりながらの新学期スタートでした。半年が経過し振り返ってみると、学生、教員、大学が“共”に頑張った・頑張れたからこそ乗り切れた」というのが素直な思いです。

所信表明に際し「共に育つ・学ぶ」「共に有る」「共に創る」の“3つの共に”を大切に、職責を担いたい旨を述べさせていただきました。困難な状況に誰か一人が、

あるいは一部のスタッフだけで立ち向うことには、限界があります。それが、長期間に及ぶと予測される課題や着地点の見えない課題の対応なら尚更そうです。携わるメンバーが”共に”“一丸となって取り組むこと、そのための見通しや進捗情報の共有、支えあい・フォローし合うこと、固定観念にとらわれずトライすることが重要となり、その舵取り・橋渡しをする職責があることを改めて感じさせられました。これからも、学部長としての職務を果たすとともに、学部の一教員としての職務も果たしていきたいと考えています。

看護学部のcovid-19の対応は、太田操前学部長が中心となり作成した看護学部 vision2018を礎に取り組んできた結果でもあると考えています。Vision2018を指針に前任者からの課題である看護学研究科博士後期課程設置に向け、教員・大学・事務職員と力を合わせて取り組んで参ります。今後ともご指導・ご鞭撻よろしくお願い申し上げます。



主任教授就任ご挨拶

放射線健康管理学講座
主任教授 坪倉 正治

令和2年6月1日付けで、放射線健康管理学講座の主任教授を拝命致しました、坪倉正治(つぼくらまさはる)と申します。もともと血液内科医として帝京大学ちば総合医療センターや、がん・感染症センター都立駒込病院にて、血液疾患診療に従事しておりましたが、2011年の東日本大震災と東京電力福島第一原発事故後、福島県にご縁をいただき、浜通りを中心として医療支援活動・放射線被ばくの計測・放射線の講演会、住民の方々の健康相談に携わっておりました。

放射線健康管理学講座の使命は、地域の復興と県民の健康維持、そして低線量被ばくにもなう人体・社会への健康影響を明らかにするため、1) 県民健康調査をはじめとする地域住民の健康の見守りと、そのデータに基づく継続的な介入のサポート、2) 福島原発事故に伴う健康影響を包括的に学術的にまとめること、3) 知識・知見を持ち住民に介入を続ける人材、および知見を広く県内・県外・国際的に発信できる人材を育成

することです。

福島で診療を行うようになり9年半になります。震災後、医療支援としてやってきた一人でしたが、逆に私が先生方や患者さん、住民の方々に助けていただき、ここまで活動を続けることが出来ました。まだまだ解決すべき課題も残されています。いただいたご恩に報いることが出来るよう、誠心誠意勤めますので、どうぞ皆さま変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

諸規程改正

■令和2年3月から令和2年8月までの 主な諸規程の制定、改正及び改廃関係

○「公立大学法人福島県立医科大学客員研究員に関する規程」の一部改正について

(平成30年4月1日制定・令和2年3月1日施行)

文科科研費奨励研究獲得後に退職し、学外の病院等へ異動した職員でも、本学で研究継続を可能とするための改正等が行われた。

○「公立大学法人福島県立医科大学安全保障輸出管理規程」の一部改正について

(平成31年3月27日制定・令和2年3月1日施行)

国際交流センター新設に伴い、輸出管理責任者とその担当業務の見直しによる改正が行われた。

○「公立大学法人福島県立医科大学電子証明書管理規程」の制定について

(令和2年3月1日制定・令和2年3月1日施行)

本学における、電子証明書の取得、貸出、使用及びその他管理に関する事項が定められた。

○「福島県立医科大学大学院看護学研究科委員会規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和2年3月3日施行)

大学院看護学研究科の選考方法について、所要の改正が行われた。

○「公立大学法人福島県立医科大学職員の定年に関する規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和2年3月10日施行)

助産師養成課程設置に伴い、助産師養成課程設置

準備室及び別科助産専攻(仮称)の教授に採用される教員について、定年の特例が設けられた。

○「福島県立医科大学附属病院医療安全管理部業務規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和2年3月11日施行)

インフォームド・コンセントの遵守状況の確認について、実施方法や手順が明確に定められた。

○「福島県立医科大学医学部履修規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和2年3月18日施行)

卒業認定の見直し及びその他所要の改正が行われた。

○「福島県立医科大学大学院医学研究科委員会規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和2年3月18日施行)

看護学研究科委員会規程内容に併せて内容が統一された。

○「福島県立医科大学学則」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和2年3月25日施行)

多様なメディアを高度に利用した授業の実施を可能にするための改正が行われた。

○「公立大学法人福島県立医科大学寄附講座に関する規程」の一部改正について

(平成20年10月1日制定・令和2年4月1日施行)

寄附講座の設置に関する様式が変更された。

○「公立大学法人福島県立医科大学におけるコンプライアンスの推進に関する規程」の一部改正について

(平成23年10月18日制定・令和2年4月1日施行)

組織改正に伴い、所要の改正が行われた。

○「公立大学法人福島県立医科大学准職員及び非常勤職員給与規程」の廃止について

(平成18年4月1日制定・令和2年4月1日施行)

公立大学法人福島県立医科大学非常勤職員給与規程の制定に伴い、令和2年4月1日付けにて廃止された。

○「公立大学法人福島県立医科大学職員退職手当規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和2年4月1日施行)

准職員に対して退職手当を支給するよう改正が行われた。

○「福島県立医科大学附属病院の副病院長に関する規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和2年4月1日施行)

附属病院副病院長の職務の見直し等の改正が行われた。

○「公立大学法人福島県立医科大学組織及び運営規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和2年4月1日施行)

令和2年度組織改正に伴い、所要の改正が行われた。

○「福島県立医科大学附属病院規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和2年4月1日施行)

病院経営戦略部、臨床医学教育研修センターの新設、病院長補佐の新設により所要の改正が行われた。

○「公立大学法人福島県立医科大学会津医療センター鍼灸研修生給与規程」の制定について

(令和2年4月1日制定・令和2年4月1日施行)

鍼灸研修生就業規則が改正されたことにより、給与に関し必要な事項が定められた。

○「福島県立医科大学医療人育成・支援センター規程」の一部改正について

(平成20年3月24日制定・令和2年4月1日施行)

医療手技教育研修開発センター設置に伴い、所要の改正が行われた。

○「公立大学法人福島県立医科大学職員給与規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和2年4月1日施行)

技能労務職給料表適用者の経過措置について、措置期間の改正が行われた。

○「公立大学法人福島県立医科大学人事管理委員会規程」の一部改正について

(平成19年7月2日制定・令和2年4月1日施行)

令和2年4月1日の組織改正に伴い、所要の改正が行われた。

○「女性医師の産休等に伴う定数配分先選定委員会規程」の一部改正について

(平成23年10月1日制定・令和2年4月1日施行)

令和2年4月1日の組織改正に伴い、所要の改正が行われた。

○「福島県立医科大学主任教授等選考管理委員会規程」の一部改正について

(平成27年2月25日制定・令和2年4月1日施行)

令和2年4月1日の組織改正に伴い、所要の改正が行われた。

○「福島県立医科大学ふくしま国際医療科学センターに関連する講座の主任教授適任者選考規程」の一部改正について

(平成27年4月1日制定・令和2年4月1日施行)

令和2年4月1日の組織改正に伴い、所要の改正が行われた。

○「福島県立医科大学新医療系学部設置準備室教員選考委員会規程」の一部改正について

(平成28年7月20日制定・令和2年4月1日施行)

令和2年4月1日の組織改正に伴い、所要の改正が行われた。

○「福島県立医科大学新医療系学部設置準備室総合科学系教授適任者選考規程」の一部改正について

(平成30年3月1日制定・令和2年4月1日施行)

令和2年4月1日の組織改正に伴い、所要の改正が行われた。

○「福島県立医科大学附属病院卒後臨床研修規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和2年4月1日施行)

臨床医学教育研修センター設置に伴い、所要の改正が行われた。

○「福島県立医科大学附属病院後期研修（専門医養成コース）規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和2年4月1日施行)

臨床医学教育研修センター設置に伴い、所要の改正が行われた。

○「福島県立医科大学附属病院歯科医師臨床研修規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和2年4月1日施行)

臨床医学教育研修センター設置に伴い、所要の改正が行われた。

○「公立大学法人福島県立医科大学知的財産権の実施許諾等に関する規程」の一部改正について

(平成26年6月16日制定・令和2年4月15日施行)

「技術移転活動を行うことのできる仲介者」について、所要の改正が行われた。

○「福島県立医科大学大学院看護学研究科長期履修に関する規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和2年5月1日施行)

新型コロナウイルス感染症の影響により研究期間の延長が必要になった場合、長期履修の1年間延長を認めるため、附則が追加された。

○「公立大学法人福島県立医科大学諸料金規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和2年5月1日施行)

附属病院の自由診療に関する諸料金の一部改正が行われた。

○「福島県立医科大学大学院医学研究科災害・被ばく医療科学共同専攻教授適任者選考規程」の制定について

(令和2年6月17日制定・令和2年6月17日施行)

福島県立医科大学大学院医学研究科災害・被ばく医療科学共同専攻の専任教授適任者の選考に関し、必要な事項が定められた。

○「福島県立医科大学大学院医学研究科履修規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和2年7月15日施行)

大学院学則の改正に伴い、所要の改正が行われた。

○「福島県立医科大学科目等履修生規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和2年7月28日施行)

大学院学則の条文等の変更に伴い、所要の改正が行われた。

○「福島県立医科大学大学院研究生に関する規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和2年7月28日施行)

大学院看護学研究科研究生の入学資格変更等に伴い、所要の改正が行われた。

○「公立大学法人福島県立医科大学プロジェクト教員等給与規程」の一部改正について

(平成20年9月16日制定・令和2年8月26日施行)

新型コロナウイルス感染症の患者等に対応した場合の手当等、所要の改正が行われた。

○「福島県立医科大学大学院学則」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和2年8月26日施行)

大学院設置基準の一部を改正する省令の施行に伴い、所要の改正が行われた。

○「公立大学法人福島県立医科大学准職員給与規程」の一部改正について

(令和2年4月1日制定・令和2年8月26日施行)

新型コロナウイルス感染症の患者等に対応した場合の手当等、所要の改正が行われた。

○「公立大学法人福島県立医科大学非常勤職員給与規程」の一部改正について

(令和2年4月1日制定・令和2年8月26日施行)

新型コロナウイルス感染症の患者等に対応した場合の手当等、所要の改正が行われた。

○「公立大学法人福島県立医科大学専攻医及び病院助手給与規程」の一部改正について

(令和2年4月1日制定・令和2年8月26日施行)

新型コロナウイルス感染症に係る感染症防疫等作業手当(特殊勤務手当)の新設に伴い、所要の改正が行われた。

○「公立大学法人福島県立医科大学臨床研修医給与規程」の一部改正について

(令和2年4月1日制定・令和2年8月26日施行)

新型コロナウイルス感染症に係る感染症防疫等作業手当(特殊勤務手当)の新設に伴い、所要の改正が行われた。

○「公立大学法人福島県立医科大学研修歯科医給与規程」の一部改正について

(令和2年4月1日制定・令和2年8月26日施行)

新型コロナウイルス感染症に係る感染症防疫等作業手当(特殊勤務手当)の新設に伴い、所要の改正が行われた。

役員会・経営審議会・教育研究審議会・医学部教授会・看護学部教授会

■役員会

【令和2年3月25日 第13回役員会】

○「公立大学法人福島県立医科大学組織及び運営規程」及び「福島県立医科大学附属病院規程」の一部改正について

令和2年度からの組織変更等に伴い、規程を一部改正することについて審議が行われ、原案のとおり承認された。

○「福島県立医科大学発ベンチャー」の称号授与について

TRセンターに所属していた元教員が代表者として設立した企業から申請があった大学発ベンチャーの称号授与について、令和2年4月1日に授与することについて報告された。

【令和2年4月1日 第1回役員会】

○地方独立行政法人法第14条第5項に基づく副理事長、理事の任命の届出について

副理事長及び理事に辞令を交付し任命したこと、地方独立行政法人法に基づき知事に届け出ることについて報告された。

【令和2年4月28日 第2回役員会】

○寄附講座の変更について

寄附講座「生活習慣病・慢性腎臓病(CKD)病態治療学講座」の変更について審議が行われ、原案のとおり承認された。

○令和元年度決算(速報)について

年次決算の速報値として、法人全体の当期総利益が4億1,100万円となり、前年度同期との比較で10億5,200万円の利益増となったこと、また、繰越欠損金を含めた総損失は6億1,200万円となったことについて報告された。

【令和2年5月27日 第3回役員会】

○寄附講座の変更について

寄附講座「医療エレクトロニクス研究講座」の変更について審議が行われ、原案のとおり承認された。

○「県民健康調査」の進捗状況について

第38回「県民健康調査」検討委員会にて公表された県民健康調査の進捗状況について報告された。

【令和2年6月24日 第4回役員会】

○令和元年度業務実績報告書について

福島県公立大学法人評価委員会に報告する令和元年度業務実績報告書について審議され、原案のとおり承認された。

○令和2年度役員課題について

副理事長及び各理事より、役員課題について報告された。

【令和2年7月29日 第5回役員会】

○定款の一部変更について

「大学の理念」の変更に伴い、本学定款の「目的」に、医学及び看護学に並んで保健科学という文言を追加する変更について審議が行われ、原案のとおり承認された。

○医学教育分野別評価の受審について

日本医学教育評価機構(JACME)による実地調査の大部分がWeb会議形式に変更となることや、調査に向けたスケジュール等について報告された。

【令和2年8月26日 第6回役員会】

○寄附講座の設置・更新について

「総合内科・臨床感染症学講座」ほか1件に係る寄附講座の新設、「外傷再建学講座」ほか2件に係る寄附講座の更新について審議され、原案のとおり承認された。

○保健科学部設置認可補正申請について

文部科学省からの審査意見に対応した補正申請書を同省に提出したことについて報告された。

■経営審議会

【令和2年3月16日

令和元年度第4回経営審議会】

○令和2年度法人予算案について

令和2年度の法人予算案について諮られ、原案のとおり承認された。

【令和2年6月23日

令和2年度第1回経営審議会】

○令和元年度決算（案）について

令和元年度の決算案について諮られ、原案のとおり承認された。

■教育研究審議会

【令和2年3月16日

令和元年度第4回教育研究審議会】

○令和2年度 年度計画案について

令和元年度の年度計画の進捗状況を踏まえ、本学が抱える課題の解決に向けた方策を検討した上で、各所属が作成した令和2年度 年度計画案について審議され、原案のとおり承認された。

【令和2年6月23日

令和2年度第1回教育研究審議会】

○定款の一部変更について（案）

「大学の理念」の変更に伴い、本学定款の「目的」に医学及び看護学に並んで保健科学という文言を追加する変更について審議され、原案のとおり承認された。

■医学部教授会

【令和2年3月18日 定例教授会】

○附属学術情報センター運営委員の推薦について

次のとおり選出され、学長に推薦された。

挾間 章博 教授(細胞統合生理学講座)

千葉 英樹 教授(基礎病理学講座)

小島 祥敬 教授(泌尿器科学講座)

青田 恵郎 教授(整形外科科学講座)

開 康一 教授(総合科学教育研究センター
(物理学担当))

未永 恵子 講師(人間科学講座)

○令和2年度医学部教務委員会委員の選任について

次のとおり選出された。

木村 隆 教授(外科研修支援担当)

松岡 有樹 教授(自然科学講座)

小山 明彦 教授(形成外科学講座)

大平 哲也 教授(疫学講座)

橋本 優子 教授(病理病態診断学講座)

関根 英治 教授(免疫学講座)

柴田 陽光 教授(呼吸器内科学講座)

下村 健寿 教授(病態制御薬理医学講座)

藤野 美都子 教授(人間科学講座)

濱口 杉大 教授(附属病院総合内科)

金井 数明 教授(脳神経内科学講座)

千葉 英樹 教授(基礎病理学講座)

志村 清仁 教授(自然科学講座)

伊関 憲 教授(救急医療学講座)

大谷 晃司 教授(医療人育成・支援センター)

亀岡 弥生 教授(医療人育成・支援センター)

※令和2年4月15日医学部定例教授会において、追加の委員及び看護学部教務委員の医学部教務委員就任者について、次のとおり選出された。

(追加選出)

西田 満 教授(生化学講座)

永福 智志 教授(システム神経科学講座)

(看護学部教務委員の医学部教務委員就任者)

太田 昌一郎 教授(生命科学部門)

○令和2年度医学部入試委員会委員の選任について

次のとおり選出された。

西田 満 教授(生化学講座)

石川 徹夫 教授(放射線物理化学講座)

開 康一 教授(総合科学教育研究センター
(物理学担当))

松岡 有樹 教授(自然科学講座)

和田 郁夫 教授(細胞科学研究部門)

鈴木 悟 教授(放射線医学県民健康管理センター
甲状腺検査部門甲状腺検査推進室)

島袋 充生 教授(糖尿病内分泌代謝内科学講座)
 山本 俊幸 教授(皮膚科学講座)
 葛西 龍樹 教授(地域・家庭医療学講座)
 右田 清志 教授(リウマチ膠原病内科学講座)

【令和2年7月15日 定例教授会】

○一般倫理委員会委員の推薦について

次のとおり選出され 学長に推薦された。

- ・生命科学・社会医学系教授
 福島 哲仁 教授(衛生学・予防医学講座)
- ・臨床医学系教授
 島袋 充生 教授(糖尿病内分泌代謝内科学講座)
 小山 明彦 教授(形成外科学講座)
 佐治 重衡 教授(腫瘍内科学講座)
- ・倫理・法律を含む人文・社会科学面の有識者
 藤野 美都子 教授(人間科学講座)

○倫理委員会専門部会員の推薦について

次のとおり選出され 学長に推薦された。

- ・分子生物学 細胞生物学又は生物学を専門とする講座等の教授
 千葉 英樹 教授(基礎病理学講座)
 和田 郁夫 教授(細胞科学研究部門)
- ・遺伝子治療臨床研究が対象とする疾患に係る臨床医
 池田 和彦 教授(輸血・移植免疫学講座)
- ・生殖医学を専門とする講座等の教授
 藤森 敬也 教授(産科婦人科学講座)
 小島 祥敬 教授(泌尿器科学講座)
- ・生命倫理に関する識見を有する者
 福田 俊章 准教授(人間科学講座)

○医学部カリキュラム委員の選任について

次のとおり選任された。

- ・生命科学・社会医学系教授
 挾間 章博 教授(細胞統合生理学講座)
- ・臨床医学系教授
 島袋 充生 教授(糖尿病内分泌代謝内科学講座)
- ・総合科学系教授
 開 康一 教授(総合科学教育研究センター
 (物理学担当))
- ・医学部生代表3名

- ・教育専門家
 高森 智嗣 准教授(福島大学総合教育研究センター)

■看護学部教授会

【令和2年3月17日 定例教授会】

○一般倫理委員会委員の推薦について

次のとおり選出され、学長に推薦された。

- 佐藤 菜保子 教授(療養支援看護学部)

【令和2年3月19日 臨時教授会】

○附属学術情報センター運営委員の推薦について

次のとおり選出され、学長に推薦された。

- 太田 昌一郎 教授(生命科学部門)
- 堀内 輝子 講師(基礎看護学部)
- 井上 水絵 講師(療養支援看護学部)
- 佐藤 利憲 講師(家族看護学部)

【令和2年7月21日 定例教授会】

○一般倫理委員会委員の推薦について

次のとおり選出され、学長に推薦された。

- 和田 久美子 教授(小児・精神看護学部)
- 佐藤 菜保子 教授(成人・老年看護学部)

編集発行

公立大学法人福島県立医科大学
 事務局 企画財務課
 〒960-1295 福島県福島市光が丘1番地
 TEL 024 (547) 1013 / FAX 024 (547) 1991